

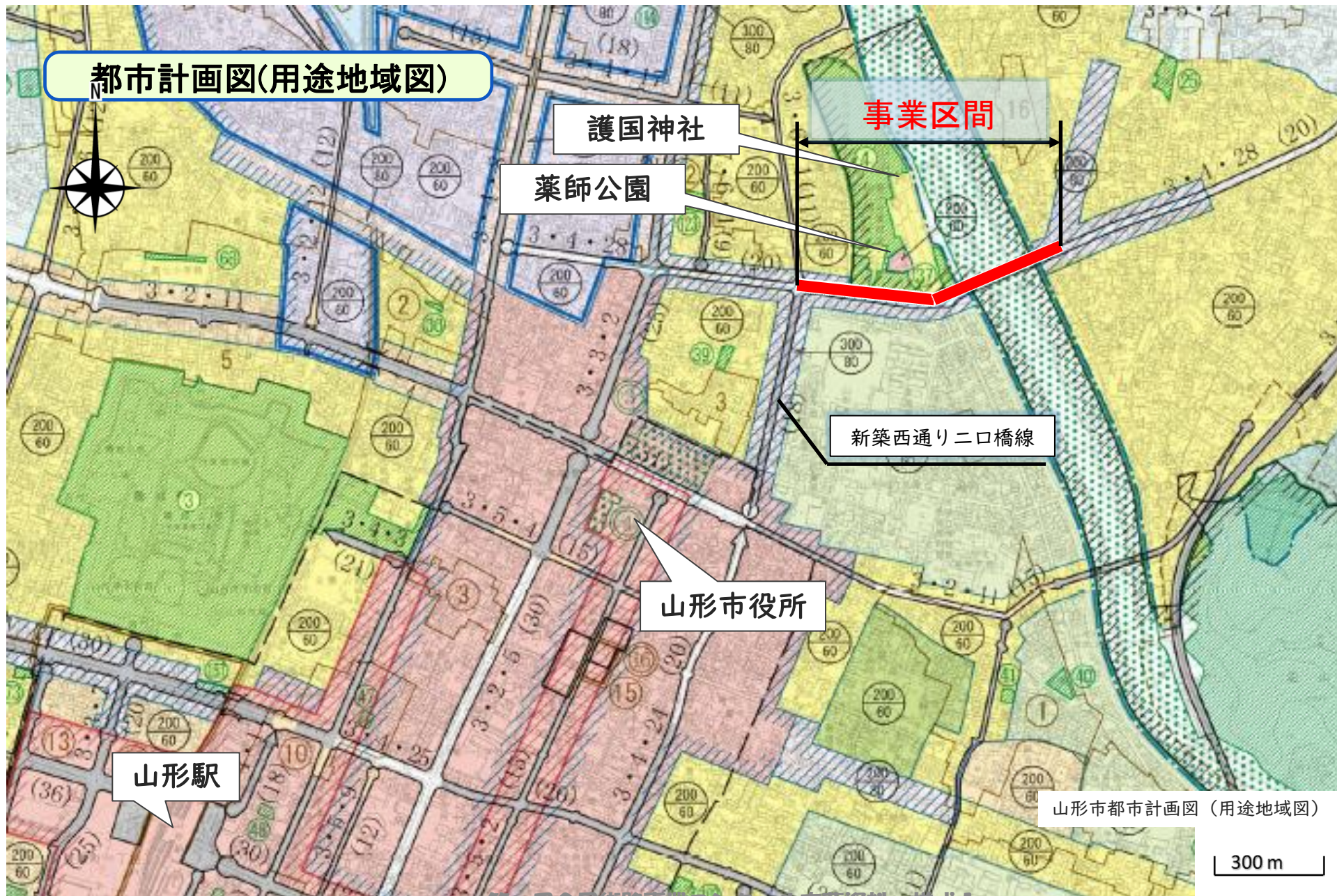
事業概要

(山形県：(都) 四日町山家町線)

応募No.	3		
事業主体	山形県	事業箇所	山形県 山形市 薬師町 地内
応募者名	山形県 村山総合支庁 建設部 都市計画課		
ふりがな 事業名称	やまがたこういきとしけいかくどうろじぎょう 3・4・28ごう よっかまちやんべまちせん 山形広域都市計画道路事業 3・4・28号 四日町山家町線		
事業概要 (400字以内)	<p>四日町山家町線は、国道13号と山形市中心部を結ぶ東西の幹線道路である。本事業は新築西通り二口橋線との交差点から、馬見ヶ崎川右岸までの637mを事業区間としている。</p> <p>現道が9mと狭いことから、朝夕の通勤・通学時の交通渋滞や歩行者及び自転車利用者の安全上、支障をきたしており、加えて、昭和8年竣工の馬見ヶ崎橋の老朽化による橋の架け替えが急務であったことから、車道2車線及び両側4.5m歩道の全幅20m(橋梁部18.8m)に拡幅する整備を行ったものである。また、道路の拡幅に合わせて電線共同溝による無電柱化、歩道部の無散水消雪工事を行い、円滑かつ安全で快適な道路環境の整備を行った。</p> <p>事業区間沿道には、歴史的建造物のある薬師公園や護国神社があることから、地域のまちづくり委員会と地元はまちづくり協定を締結し、歩いて楽しめる魅力ある街通りをコンセプトに、街並みを「和」に統一するなど歴史的建造物と沿道建築物との景観の調和を図った。</p>		
事業規模	事業延長(km)	0.6km (637.1m)	
	幅員(m)	20.0m	
	事業期間(和暦)	平成15年～令和4年	
	事業費(億円)	66億円	
受賞歴	有・ <input checked="" type="radio"/> 無		
URL			

事業位置図





路線全体の進捗状況

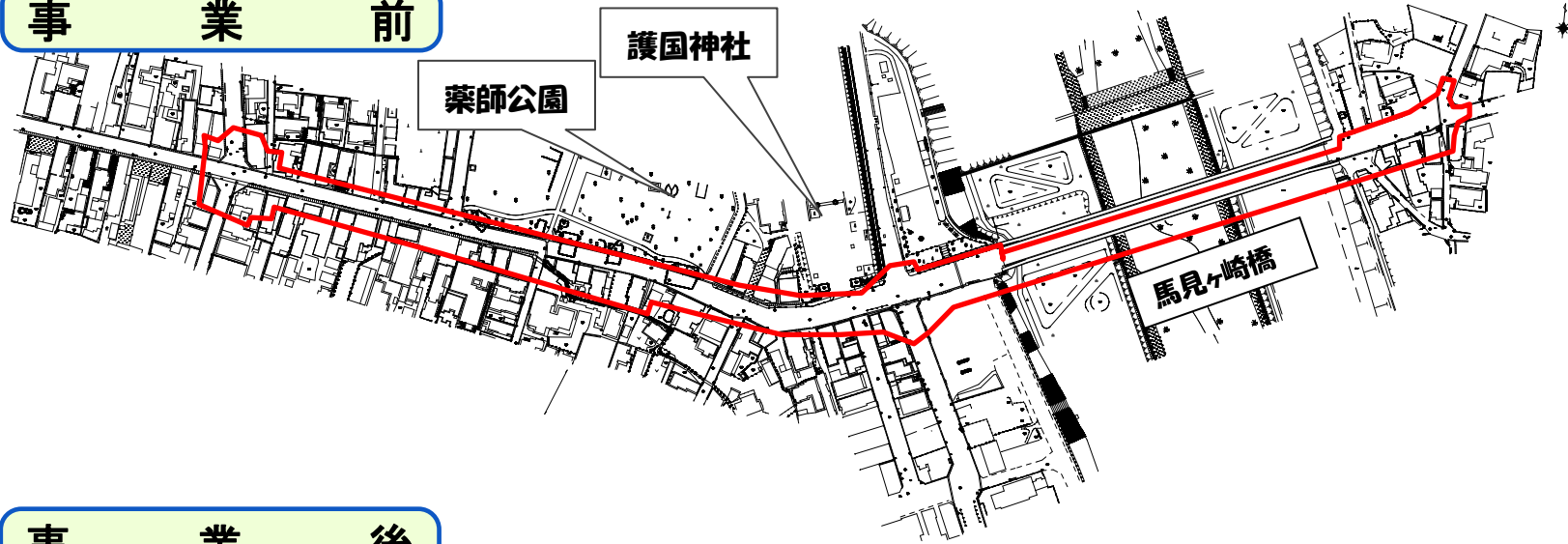
3・4・28号四日町山家町線 総延長 L=2,360m



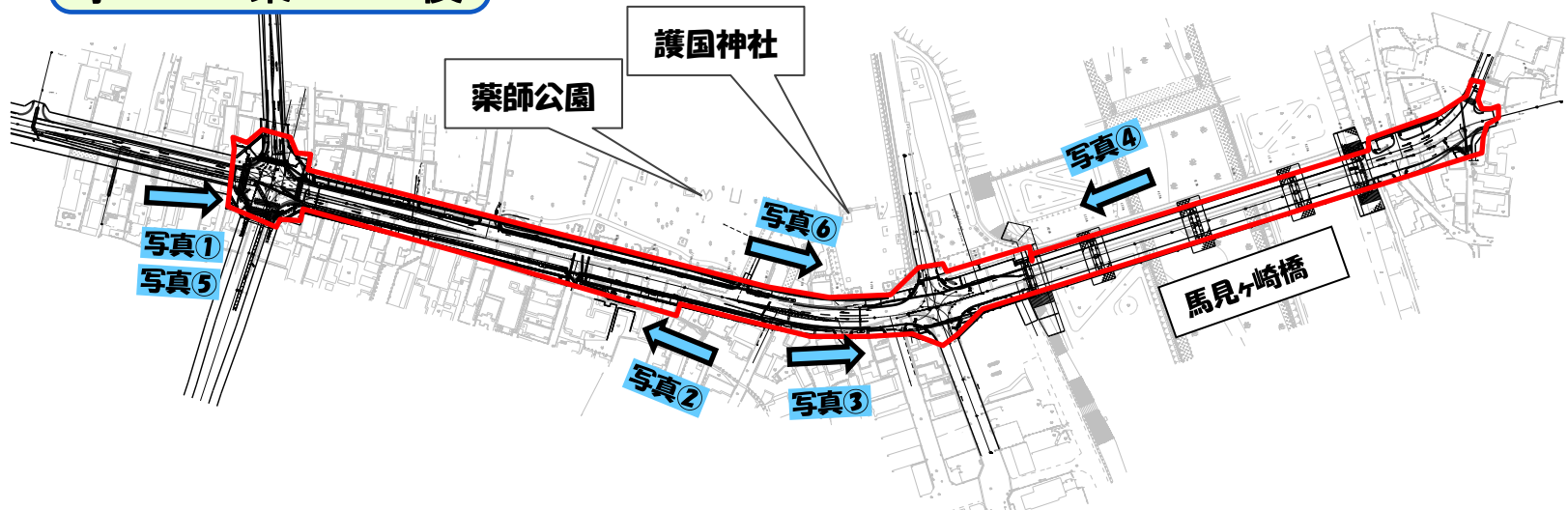
凡 例	
	今回応募区間
	事業実施中
	未着手区間
	既設道路

平面図

事業前

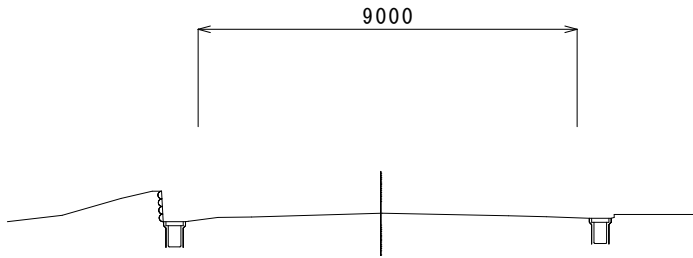


事業後

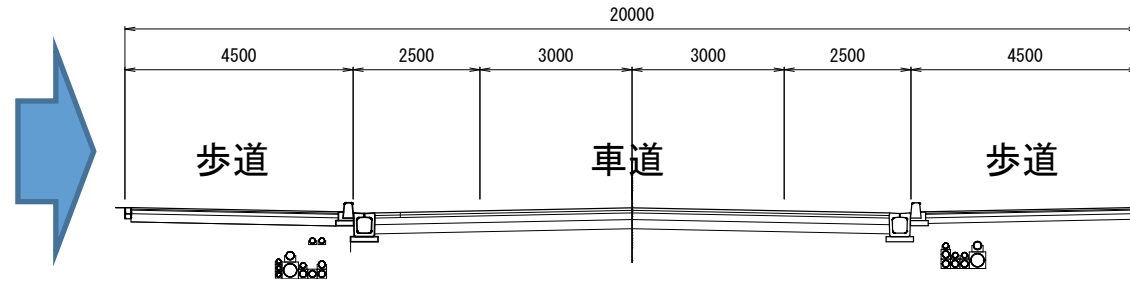


縦断図・横断図

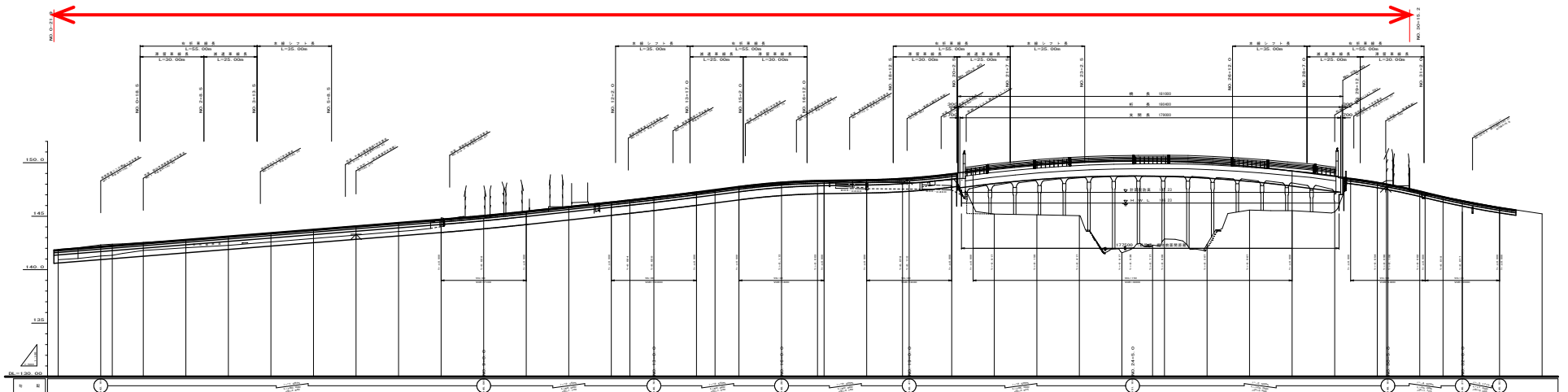
事業前



事業後



事業区間 L=637.1m



事業前写真



写真①

平成15年3月撮影



写真②

平成15年3月撮影



写真③

平成15年3月撮影

事業後写真

(山形県：(都) 四日町山家町線)



写真①

令和4年10月撮影



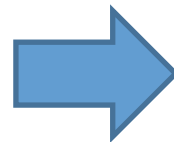
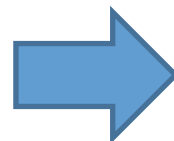
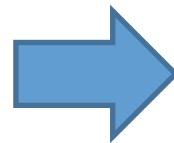
写真②

令和4年10月撮影



写真③

令和4年10月撮影

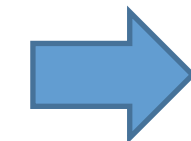


事業前写真



写真④

平成15年3月撮影

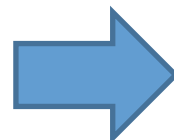


道路の拡幅



写真⑤

平成15年3月撮影

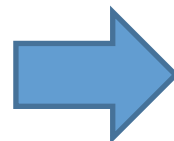


無電柱化



写真⑥

平成15年3月撮影



歩道部の消雪



写真④

令和4年10月撮影



写真⑤

令和4年10月撮影



写真⑥

令和5年1月撮影

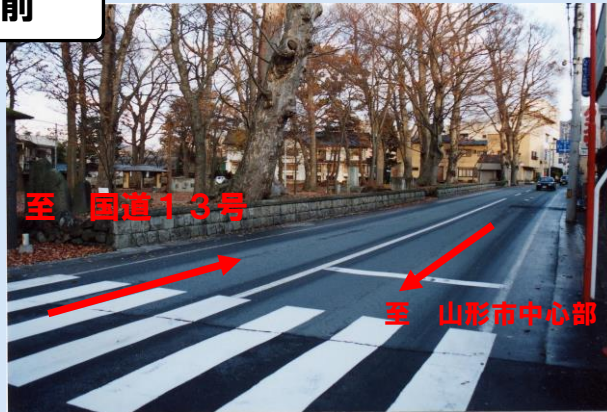
事業後写真

(山形県：(都) 四日町山家町線)

事業効果アピール資料

利便性・安全性の向上

整備前



整備後



- 現道拡幅による交通渋滞の緩和
- 歩道部の無散水消雪設置による冬期歩行時の安全の確保
- 無電柱化による景観の向上と防災・安全性の強化

事業効果アピール資料

まちづくり委員会

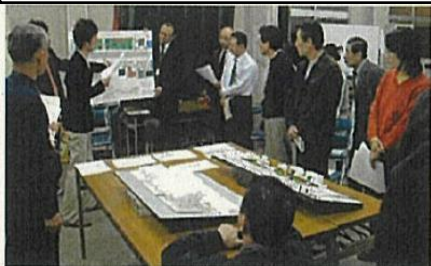
地元住民を中心に平成14年度に「薬師町まちづくり委員会」として活動をスタート。事業沿線にある薬師公園や護国神社、山形五堰の一つである宮町堰などの歴史・文化等の地域性に配慮し、「歩いて楽しめる魅力ある街並みの形成」を図るために地元と薬師町通りまちづくり協定を締結。事例視察や大学等との意見交換等を行いながら、締結内容を踏まえて県とまちづくり委員会が協力し合い、街路と沿線が一体になった街並みの形成に大きく寄与した。

まちづくり委員会による活動

事例視察

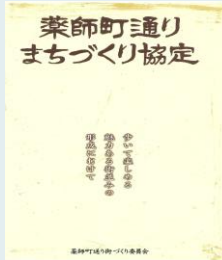


意見交換会



薬師町通りまちづくり協定 (H16締結)

形態：歴史・文化遺産等に調和した和風建築物とする。
 高さ：歴史・文化遺産等に調和した高さとする。
 色調：低彩度を基調。
 壁面：黒、こげ茶、灰色、白等
 屋根：黒、こげ茶、灰色等



沿線の住宅

薬師公園前
フットライト



親水空間の創出
(宮町堰)



苦労や工夫等アピール資料

馬見ヶ崎橋の親柱

旧橋には、石灯籠を模した親柱が設置され、地域のシンボルとして広く親しまれていることから、橋の歴史と架橋地点周辺の景観を保全・継承する必要があるとして新橋で活用。
親柱の活用にあたっては、旧橋解体時に仮移設を行ったのち、補修・クリーニングを実施し新橋に設置した。

旧橋の親柱



解体・補修



新橋へ設置



苦労や工夫等アピール資料

馬見ヶ崎橋の親柱

旧橋には、石灯籠を模した親柱が設置され、地域のシンボルとして広く親しまれていることから、橋の歴史と架橋地点周辺の景観を保全・継承する必要があるとして新橋で活用。

親柱の活用にあたっては、旧橋解体時に仮移設を行ったのち、補修・クリーニングを実施し新橋に設置した。

旧橋の親柱



事業区間内のポケットパークへ仮置



解体・補修



新橋へ設置



苦労や工夫等アピール資料

馬見ヶ崎橋の桁色の決定

新橋を将来にわたって地域の方々に親しまれるよう橋梁の桁色に関してアンケートを実施。
その結果、濃い青色に決定した。

濃い青色



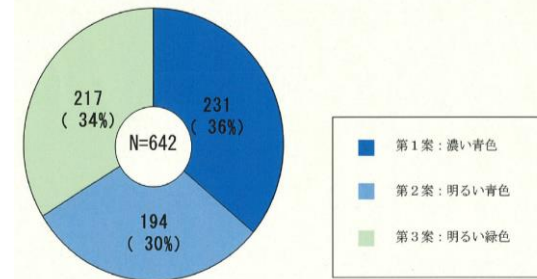
馬見ヶ崎川の風景になじむ橋梁景観をイメージとした。



明るい青色



明るい緑色



アンケート結果

受賞歴・報道資料

H25. 4. 11山形新聞にて掲載

H28. 3. 11山形新聞にて掲載

H28. 12. 13山形新聞にて掲載